

『歴史民俗資料学叢書』刊行のことば

神奈川大学では、歴史民俗資料学の研究者を養成するために、一九九三年、日本常民文化研究所を母体として、大学院歴史民俗資料学研究科を開設、二年後の一九九五年には後期博士課程も設置するにいたしました。

教員、院生ともども、日本の民衆の生活・文化・歴史を歴史学と民俗学を統合した視角から対象とし、また自ら収集し、整理した文書・民俗資料に立脚した分析を第一の目標に掲げ、研究活動を推進してきました。この間、一〇周年記念シンポジウム「歴史と民俗の交錯」などを開催、歴史民俗資料学の有意義性を追求してきました。

大学院開設後一〇年を超えたこのたび、研究科では教員の研究成果はもとより、蓄積されてきた院生の修士論文・博士論文、それらに基づきさらに展開を試みた論考を歴史民俗資料学叢書として世に問うことにしました。歴史民俗資料学の有効性を少しでも理解していただき、斯学の発展に寄与できることを一同願うものです。

今回は、本研究科もその一拠点となっている、神奈川大学二十一世紀COEプログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」の若手研究者育成事業の一環として、刊行計画が実施に移されました。関係各位に感謝の意を表するとともに、今後とも、継続的に刊行していきたいと考えております。

二〇〇六年三月吉日

神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科